

モバイルシリーズ第3弾！業界初！
社員情報活用支援システム “けいたいLAN” を開発

- いつでもどこからでも携帯電話・パソコンで社内情報にアクセス -

平成15年1月16日

あいおい損害保険株式会社(本社: 東京都渋谷区恵比寿 1 丁目 28 番 1 号、社長: 瀬下 明)では、社員が外出先でモバイル機器(携帯電話、PDA、モバイルパソコン)を活用し、社内のグループウェアをはじめとした各種情報にアクセスできるシステムを開発しました。同時に、「携帯電話ワンタイムパスワード」システムをコアとしたセキュリティ基盤を、伊藤忠テクノサイエンス株式会社(本社: 東京都千代田区富士見 1 丁目 11 番 5 号、社長: 後藤 攻)と共同開発し、自宅など社外のパソコンから、さらに海外の端末からもアクセス可能なシステムを構築しました。

これにより社員は、いつでも、どこにいても社内LANと同じ各種情報を閲覧・活用できるため、迅速なお客様サービスと代理店支援が実行できると同時に、効率的な業務活動が可能となります。また、これまでは新鮮な社内情報に接し難かった出向者や海外駐在員も、リアルタイムな情報活用が可能となるため、全社的な情報共有化を一気に進めることができます。

モバイルとワンタイムパスワードでユビキタス対応の保険ビジネスモデルを実現した先例はなく、業界初のシステムです。

当社ではモバイル社員支援“けいたいLAN”の名称で、2月17日より全国社員10,000人を対象にスタートします。

なお“けいたいLAN”は、昨年6月に代理店を対象にスタートした“けいたいPOS”、7月よりお客様を対象にサービスを開始した“けいたいIOI”に次いで開発したもので、これで保険業界初の「モバイル3シリーズ」の基本ラインアップが出揃ったこととなります。

今後も当社では、従来にない業界初の機能を順次開発し各モバイルシステムの機能拡充を図ると共に、システム間の連携をさらに進め、代理店への支援強化、並びにお客様サービスの一層の向上を推進していきます。

1. 社内LANのグループウェアとリアルタイムに連携

当社では現在、全社員がIDを持ち、社内LANのグループウェア(ロ-ナルツ)で、Eメール、掲示板、その他共有の情報データベースを活用できる環境を整備しています。

しかしこの環境では、利用が社内に設置したパソコンに限定され、社外では利用できないため、直行や直帰の多い営業担当者や出張の多い本社社員などは、外出先から社内に電話し、内務担当者から連絡事項やスケジュール、各種情報データなどを照会・確認せざるを得ない状況となっています。一方でインターネットの普及により、社内外の連絡や問い合わせにEメールを利用するケース

ースが一般化し、本人以外(代理)の者が情報を確認することが困難になってきています。

このたび開発しました“けいたいLAN”は、このような環境変化に対応したもので、社員が自身で所有するモバイル端末から社内LANのグループウェアに随時アクセスし、情報をリアルタイムに活用できる画期的なシステムです。

“けいたいLAN”は主に3つの特徴を持っています。

まず第1は、会社のアカウントを活用したEメールの送受信機能です。今までは外出時や緊急時の連絡の際に、個人の携帯電話や自宅パソコンのプライベートなEメールアドレスを使うこともありましたが、今後はビジネス用を明確に区分して、会社のアカウントだけで社内外との連絡が可能となります。また携帯電話のメールは文字数の制約がありビジネス利用としては限界がありましたが、“けいたいLAN”ではこの問題点も解消しています。

第2は、各種電話帳(社内共有アドレス帳、個人アドレス帳、部署情報等)を参照できる機能です。今までは社員や取引先の連絡先(電話番号、Eメールアドレス)を、手帳や携帯電話、PDAなどに転記・登録しておく必要がありましたが、今後は社内のデータベースから最新情報を参照できますので、この手間は一切不要となります。

第3は、社内の通知・通達や緊急ニュースの参照機能です。これにより社員は、いつでもどこにいても社内情報にアクセスできるため、時間の有効活用が可能となり、活動パターンを抜本的に改革できる環境が整備されます。

2. 自宅等のパソコンからのアクセスも可能とする万全なセキュリティ基盤を構築

社員が常に所持し活用しているモバイル端末は携帯電話です。しかしこのシステムは、社外での利用に最も適しているものの、画面のサイズや通信速度の制約から大量の情報を見るには限界があります。特に、メールに添付されたファイルや社内通達などの詳細内容、表・グラフ・画像などの確認は困難となります。

このため当社では、社外パソコンからリモートで社内LANのグループウェアへ接続する実験を行ってききましたが、全社員が利用するにはコスト面での難しさがありました。一方、近年社員の自宅等においてもブロードバンドによるインターネット常時接続が急速に普及してきており、これをビジネスに活用することも十分可能となってきました。但し実用化に向けての最大の課題は、社員へのなりすましや、情報の漏洩・改ざん・盗難などに対するセキュリティ対策です。

このような状況を踏まえ今般、伊藤忠テクノサイエンス社と共同開発したセキュリティ基盤のコアシステムが、「携帯電話ワンタイムパスワード」です。このシステムは当社「モバイルシリーズ」として新たに開発し運用中の認証基盤(端末認証と本人認証の組み合わせた強固な仕組み)で特定された携帯電話を活用し、1回きりで使い捨ての暗証番号(ワンタイムパスワード)を取得、これを社外のパソコンでログインする時に入力することで、社内LANに接続できる、安全で安価な画期的なシステムです。

この他にも、通信経路における「データ暗号化」や「ワンタイムURL」、端末上に情報を残さないための「キャッシュコントロール機能」、ブラウザの種類・バージョンなどをチェックし不適切な環境のパソコン

ソコンからのアクセスを許可しない仕組みの開発・導入、等々、万全なセキュリティ基盤を構築しました。

3. 業界初の保険ビジネスモデルを実現

これにより社員は、いつでも、どこにいても社内LANと同じ各種情報を閲覧・活用できるため、迅速なお客様サービスと代理店支援が実行できると同時に、効率的な業務活動が可能となります。

またこのシステムは、これまで新鮮な社内情報に接し難かった出向者や、海外駐在員にも提供しますので(但し海外駐在員はパソコンに限定)リアルタイムな情報活用が可能となり、全社的な情報共有化、活用環境が一気に進展することになります。

さらにこのことは、来るべきユビキタス社会を展望した在宅勤務も可能な環境に道を開いたことにもなります。

このように、モバイルとワンタイムパスワードでユビキタス対応の保険ビジネスモデルを実現した例は他になく、保険業界初のシステムとなります。

4. 昨年9月末にシステム開発、12月末に10,000人環境を構築

“けいたいLAN”のシステムは昨年9月末、モバイル端末および社外パソコンの双方同時に開発を完了。10月より本社周辺の東京地区の社員での活用を開始し、機能面、性能面での実証を行なってきました。

その結果、期待通りの効果得られ、また安定稼働の確認がとれたことから、昨年12月末に出向者を含む全社員10,000人が活用できる環境を構築。本年2月17日より全国一斉にスタートすることといたしました。

5. 業界初の「モバイル3シリーズ」の基本ラインナップが出揃う

今般のモバイル社員支援システム“けいたいLAN”は、昨年6月スタートのモバイル代理店支援システム“けいたいPOS”、7月スタートのモバイルお客様支援システム“けいたいIOI”に続く、当社「モバイルシリーズ」の第3弾となります。

これで当社がユビキタス社会の到来を踏まえ開発を進めてきた「モバイルシリーズ」は、「お客様」とそのお客様にサービスと提供する「代理店」、さらにそれを支援する「社員」の3者が出揃い、基本ラインナップが整いました。

また“けいたいLAN”には“けいたいPOS”や“けいたいIOI”が持つ、契約照会や保険料試算などの一部機能を盛り込んでいるため、代理店やお客様からの問い合わせにも、いつでもどこでもスピーディに対応できるようになります。

このように今後も当社では、従来にない業界初の機能を順次開発し、各モバイルシステムの機能拡充を図ると共に、これらシステム間を相互に連携させたメニューを増強し、お客様サービスの一層の向上に向け取り組みを強化していきます。

以上

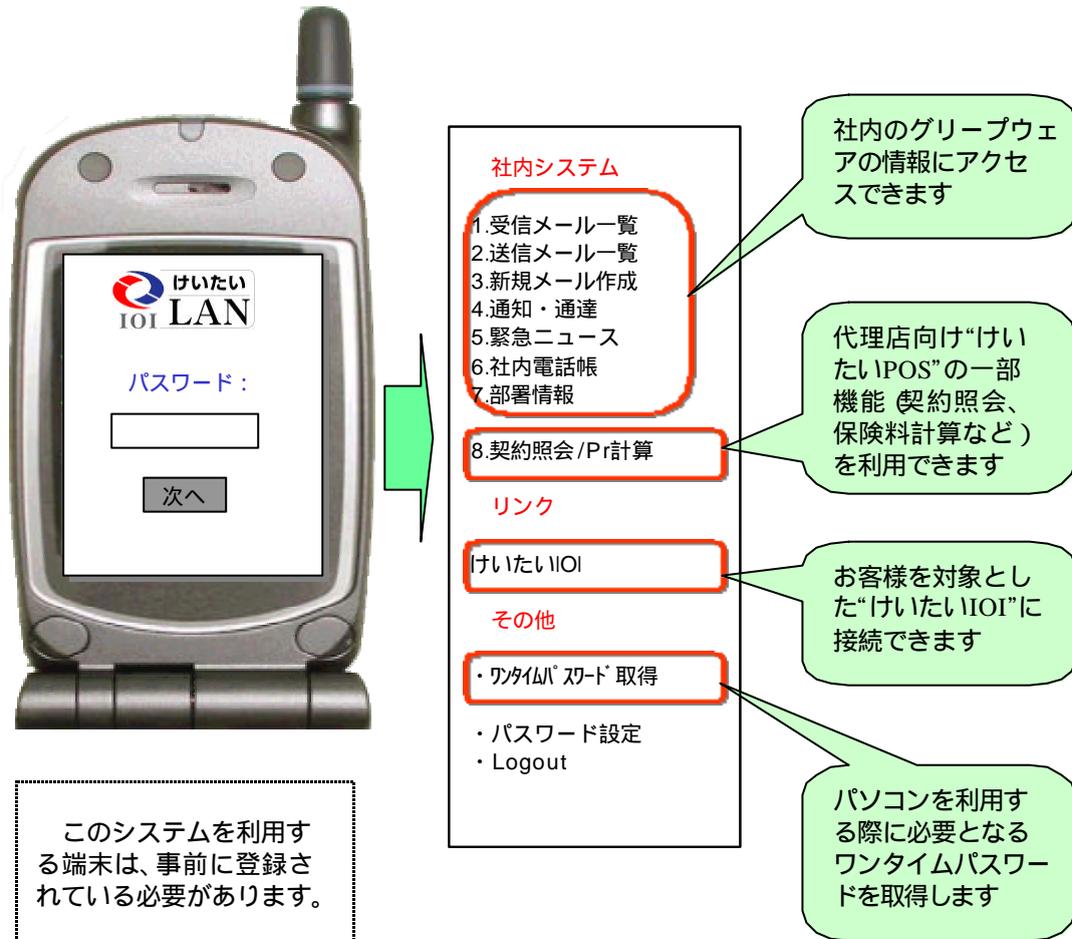
“けいたいLAN”の画面イメージ

別紙1

「モバイル3シリーズ」のシステム概要図

別紙2

“けいたいLAN”の画面イメージ



『モバイル3シリーズ』のシステム概要図

